

6・20 社会学合同クラ討 ニレジメ＝

① 6・14 学長選阻止斗争の総括

14日の学長選（オニ次投票）を12日の学生大会、13日の学生集会決定を踏まえて、フテズとして主体的に斗った我々社会学は、現時点では「選舉は強行された」、学生は敗北したのだ。等と、清貧主義的に説得することを拒否し、14日の斗争の意義、廊道を抽出しつつ、今後の抗議斗争の展望を切り開くべく意図収集することが必要であると考える。

（i）今回の学長選のもつ意味

12日の学生大会で明らかにしたように、学内には大きく分けた、学長選の挺立方派二つ対立している。その一つは、執行部提案（委員長・副委員長）に代表されるものであり、今一つは専任委提案に示されるものである。ここでは相互通脇を検討する中で、学長選斗争を考えてみたい。

前者の意見は、「学生の要求を聞いてくれる民主的学長を実現しろ」というエローカンが示すとおり、教授庇護路線である。そして「今必要なことは、三輪知行連携一派による、これまで自治破壊をやめさせ、大学の民主的運営をする学長を実現することであり、抗議廊道を前面に出すことだけだ」という論理である。この論理からいへば、学長選阻止をもうろこ一派裏方学生から、選舉を守る之翁官僚と同様に差別化されてしまう行動でてくる。我々はこれを正当と認めるわけにはいかない。必ずオーライ、民主的学長などは存在し得るのか、執行部系は、いつもの如く、何別の教授と大学運営装置としての学長を二重写しし、新たにも彼の意志を反映する（しかも、アブリオリ）に、かのようう幻滅を感じている。しかししながら、学生と学長との全く一致することなどあり得ないのである。オニに、学長選は抗議廊道と切り離せるのか、三輪、林、西候補は、大学運営の正常化を唱えている。だが、現在の混亂を生み出したのは何だ、たのむ。それはまさに、過去数年来紛糾してきる抗議移転なのである。しかも、現時点は抗議場地の工事復旧、MP毒等、移転推進の最終段階にある。このことを考えるならば、抗議廊道の解決は

くしては、正常化などあり得ないのである。しかしながら、西候補は抗議に賛成するのを明らかにしている。それでは、正常化とは何を意味するか。我々は、現時点でのその道は、シーキャンバス論による学内=各学部教授会一本化であると考えざるを得ない。執行部系諸君は、形式民主主義を経れば（手続を踏めば）リーダーシップの移動を認めるというのか。オニには、学生の尊厳をつきつけるとは一体何か。これに関する、學なるお願い運動であり、何らの保証もないアリバイ的なものであることを指摘するに止める。以上のより批判を踏まえて我々は後者の「学長選阻止」を支持し、行動したのである。（詳細略）

（ii）阻止斗争の廊道点

今回の選舉は強行され、三輪（光）が当選した。しかししながら、どうしたことはどうでもいいのだ。廊道は、選舉が裏方的に行われてしらず、にじてある。我々は、ここで文学生大会で決定された方針を一方的に心みにじ、にはまり、破廉恥にも外人部隊、右翼学生を引き集め、肆ム官、教官と共に斗争を妨害した執行部系諸君の逆ピケットを断じて許すことはできない。彼らは、教官と共に（民主的）学生に敵対したのであ、に、同時に我々は、主体者側の弱さを上げねばならない。まず、強固な意志一致性からとれこむことである。（150名の隊列、逆ピケットを突破できず、に隊列の脆弱性を）次に、我々社会学クラークの斗争の不充分さである。（全体としての参加は2年のみ）これらの点を総括して、今後の展望を考察せねばならないと考える。

② 抗議斗争の今後の展望（詳細略）

スケジュール

20日、文自治委員会

25日、文学生大会

28日、評議会

エローカン

調査に計上阻止！

MP毒解禁！

抗議移転粉碎！

6・10 定定白紙撤回！

クラークを通じて更なる抗議廊道の深化を防ぐ、クラークとして主体的に斗争を推進することが、庶民のストライキを「口」としろ、唯一の道であると考える。

全ての社会学学生は、社会学の旗の下に結集せよ！（文責：無頼童一）